英米文学科同窓会第 16 回総会 記念講演

落語と端唄に息づく江戸の暮らし

講師　三遊亭遊史郎師匠（富﨑十郎氏）

1967 年神奈川県横浜市生まれ。本名 富﨑十郎。1987 年 4 月、青山学院大学文学部英米文学科に入学。 落語研究会に入部。1991 年 10 月、三遊亭小遊三に入門。前座名三遊亭おたくとして寄席で修業を始める。1992 年 3 月、同大学卒業。
1996 年 2 月、二ツ目に昇進、三遊亭遊史郎と改名。2005 年 5 月、真打に昇進。
主なメディア出演「鍵のかかった部屋」(フジテレビ)、「株価暴落」、「LINK」(WOWOW)、「満天のゴール」(NHK)、映画「王妃の館」、「乱歩の幻影」、「トークサバイバー2」(Netflix)。
特技は三味線演奏(江戸端唄末広会師範)、 趣味は映画、演劇の鑑賞。
青山学院校友会アイビーグループ代表幹事、青山学院校友会常任委員、同窓会幹事を務める。

現在放送中の NHK 大河ドラマ「べらぼう」では、江戸の遊廓である吉原が舞台となり注目を集めています。この度の記念講演では、落語家の三遊亭遊史郎が語る古典落語二席と、三味線の弾き唄いによる江戸端唄で、江戸の風情を感じて頂きたいと思います。

一席目の落語は「湯屋番」です。遊びが過ぎて家を勘当された大店の若旦那。大工の棟梁の家の二階に居候をしていたのですが、やがてお風呂屋さんへ奉公に行くことになり、喜び勇んで風呂屋の番台に上がるという滑稽噺です。

その後に三味線の弾き唄いで江戸端唄を何曲か。「梅は咲いたか」「からかさ」などを唄って、落語の二席目は人情噺の名作と言われる「子別れ」です。酒と遊びに明け暮れた挙句に女房、子供と別れて独り身となった大工の熊さん。三年の月日が流れたある日、息子の亀ちゃんと思いがけず再会をするのですが・・・。

人の心に昔も今もそれほどの違いはありません。落語や端唄を通して、江戸の人々の暮らしに思いをはせてみてはいかがでしょうか。（三遊亭遊史郎）

日 時：2025 年 6 月 7 日（土）15:30～16:30（総会終了後）
場 所：校友会 A 室（アイビーホール 2 階）
開催形式：対面(基本)＋Zoom meeting によるハイブリッド形式